

新晃工業株式会社

(証券コード6458 東証プライム)

2025年3月期

決算補足説明資料

2025年 5月 15日

目次

I. 2025年3月期 決算実績	P.2～
II. 2026年3月期 業績予想	P.10～
Appendix	P.13～

I . 2025年3月期 決算実績

- 2025年3月期 業績：
売上高570億円、営業利益99.8億円（計画比：売上高3.6%増、営業利益5.1%増）
- 製造拠点の国内回帰による産業空調や大型再開発案件に伴うビル空調、データセンターのサーバー冷却用空調機の需要など、市場環境は堅調に推移した
- 日本セグメントでは、通期で取り組んだ生産平準化が奏功し、連結でも増収増益をけん引。ターゲット市場であるデータセンターや空調設備工事メンテナンスの需要取り込みもあり、売上・営業利益は大きく伸長
- アジアセグメントでは、中国における不動産市場停滞の影響が続く。利益率向上施策を進めたものの、価格重視の厳しい事業環境もあり、通期では営業損失で着地
- 財務戦略では、1年間で約47.1億円の自己株式取得を行ったほか、12月には株式流動性の向上・投資家層の拡大を目的に株式分割を実施。2026年3月期は約45.8億円（上限）の自己株式取得を予定し、2025年3月に発行を決議した転換社債を取得の原資に充てるなど、負債活用による大胆な資本構成の見直しを実行
- 中計「move.2027」で掲げた資本コスト経営の推進により、ROEは12.8%（前期比1.5ポイント増）、2025年3月末におけるPBRは1.4倍となった

連結損益計算書

SINKO

■ 売上高は570億円（前期比9.7%増）、営業利益は99.8億円（前期比15.8%増）で着地

（単位：百万円、%）

	2024年3月期		2025年3月期			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	51,943	100.0	57,005	100.0	5,062	9.7
日本	44,426	85.5	49,768	87.3	5,342	12.0
アジア	7,517	14.5	7,237	12.7	△280	△3.7
営業利益	8,627	16.6	9,986	17.5	1,359	15.8
日本	8,448	16.3	10,228	17.9	1,780	21.1
アジア	135	0.3	△283	△0.5	△418	—
経常利益	9,120	17.6	10,615	18.6	1,495	16.4
親会社株主に帰属する当期純利益	6,580	12.7	7,829	13.7	1,249	19.0
受注高	37,315	—	32,463	—	△4,852	△13.0
受注残高	20,883	—	20,069	—	△814	△3.9
投資金額	3,268	—	3,059	—	△209	△6.4
減価償却費	1,320	—	1,576	—	256	19.4

- 製造拠点の国内回帰による産業空調や大型再開発案件に伴うビル空調、データセンターのサーバー冷却用空調機の需要など、市場環境は堅調に推移した
- 日本セグメントでは、通期で取り組んだ生産平準化が奏功し、連結でも増収増益をけん引。ターゲット市場であるデータセンターや空調設備工事メンテナンスの需要取り込みもあり、売上・営業利益は大きく伸長
- アジアセグメントでは、中国における不動産市場停滞の影響が続く。利益率向上施策を進めたものの、価格重視の厳しい事業環境もあり、通期では営業損失で着地

下期・通期の収益分析

- 下期偏重の傾向自体は残るものの、生産平準化の効果により、上期での利益面の伸びが通期でも業績伸長に貢献
- 昨年11月の修正予想でアジアセグメントの利益減少を織り込み、下期単独では実質減益予想となったが、好調な日本セグメントでアジアの減少を想定以上にカバー。結果として、修正前の下期営業利益予想（63億円）も上回って着地した

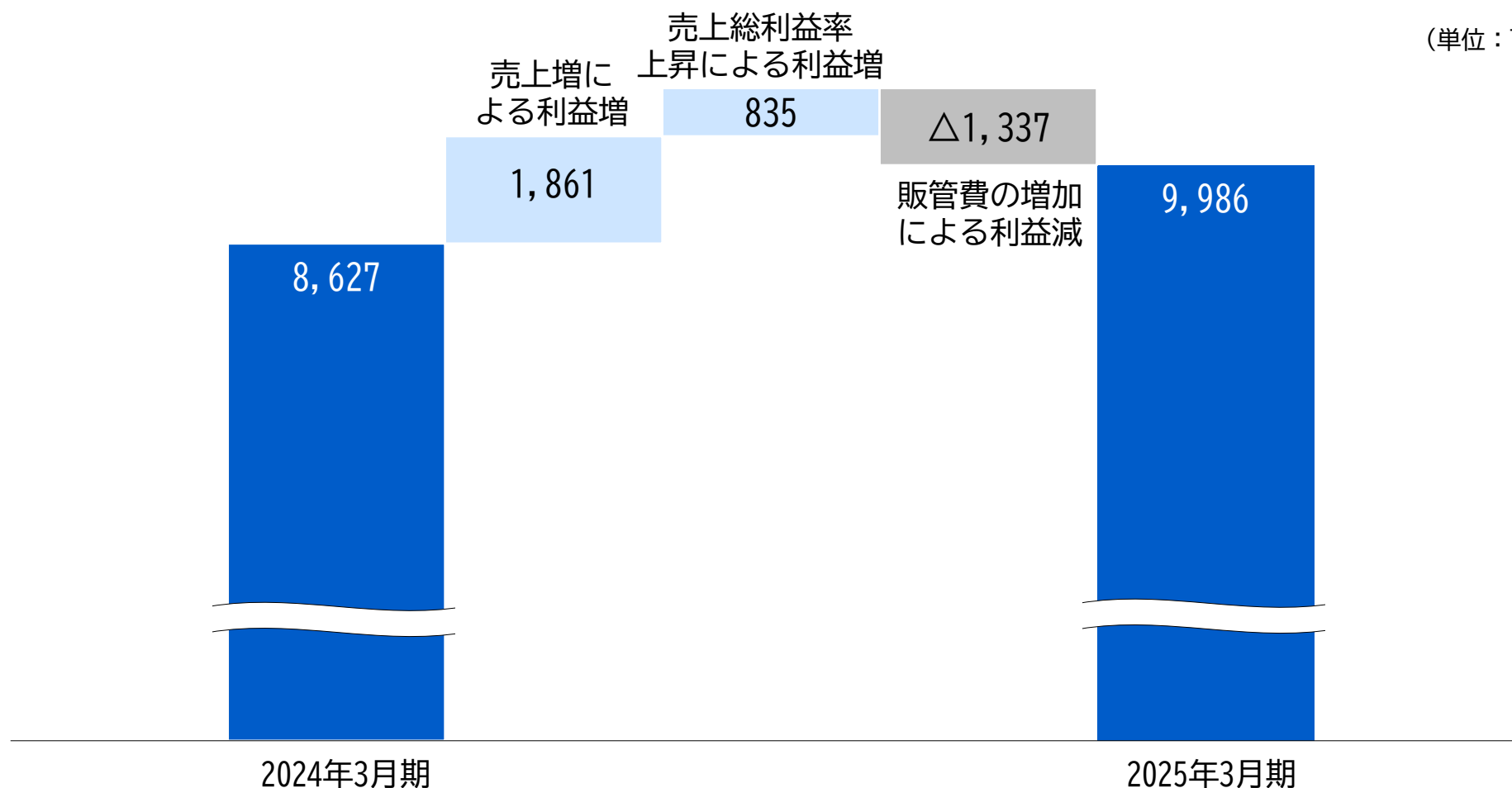
(単位：百万円)

※下期・通期の予想は 2024年11月12日発表の修正後予想		上期	下期					通期		
			第3四半期	第4四半期	下期計	予想(※)	予実差	通期計	予想(※)	予実差
2024年 3月期	売上高	22,290	13,996	15,657	29,653	—	—	51,943	—	—
	売上総利益	7,435	5,507	6,158	11,665	—	—	19,100	—	—
	売上総利益率	33.4%	39.3%	39.3%	39.3%	—	—	36.8%	—	—
	営業利益	2,527	2,826	3,274	6,100	—	—	8,627	—	—
	営業利益率	11.3%	20.2%	20.9%	20.6%	—	—	16.6%	—	—
2025年 3月期	売上高	24,201	14,907	17,897	32,804	30,799	2,005	57,005	55,000	2,005
	売上総利益	8,910	6,127	6,760	12,887	—	—	21,797	—	—
	売上総利益率	36.8%	41.1%	37.8%	39.3%	—	—	38.2%	—	—
	営業利益	3,561	3,263	3,162	6,425	5,939	486	9,986	9,500	486
	営業利益率	14.7%	21.9%	17.7%	19.6%	19.3%	0.3pt	17.5%	17.3%	0.2pt
増減額 (増減率)	売上高	1,911 (8.6%)	911 (6.5%)	2,240 (14.3%)	3,151 (10.6%)	—	—	5,062 (9.7%)	—	—
	売上総利益	1,475 (19.8%)	620 (11.3%)	602 (9.8%)	1,222 (10.5%)	—	—	2,697 (14.1%)	—	—
	営業利益	1,034 (40.9%)	437 (15.5%)	△112 (△3.4%)	325 (5.3%)	—	—	1,359 (15.8%)	—	—

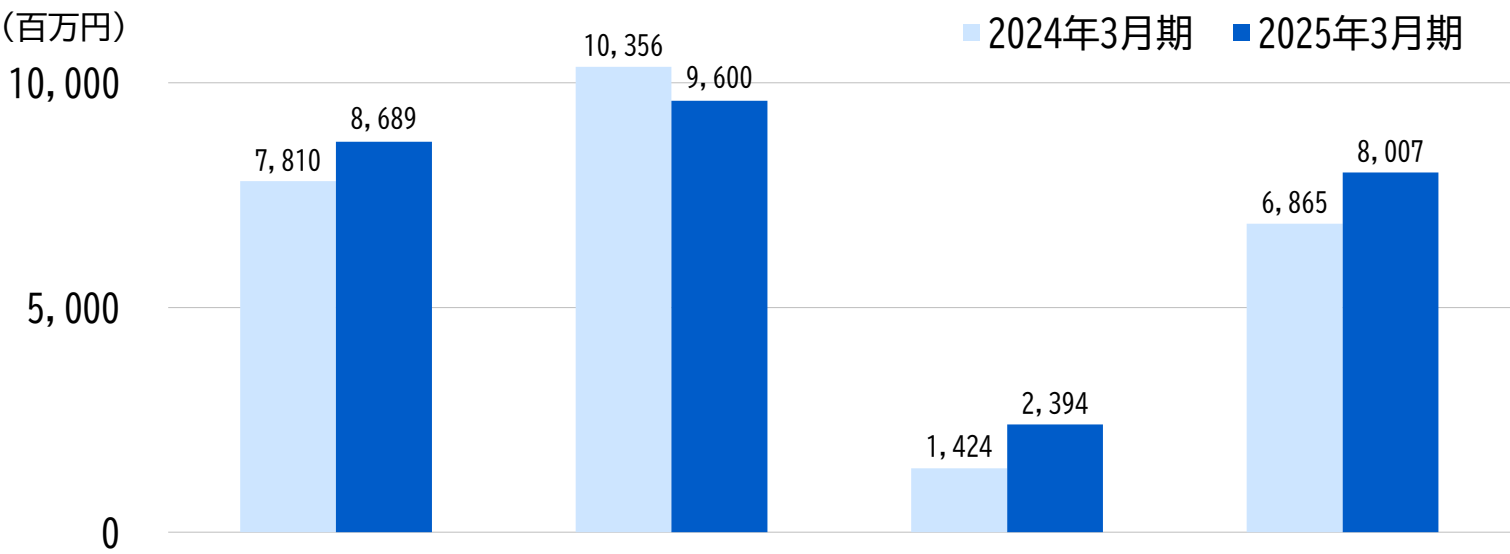
営業利益増減要因

- 売上増による増益が約18.6億円、売上総利益率の上昇による増益が約8.3億円、その他人件費・物流費など販管費の増加による減益が約13.3億円。トータルでは前期比で約13.5億円の増益
- 売上総利益率の上昇は、生産平準化による工場運営の効率化や、前期・当期に行った価格改定の効果が現れたことなどが要因

(単位：百万円)



建築用途別 売上動向（新晃工業単体）



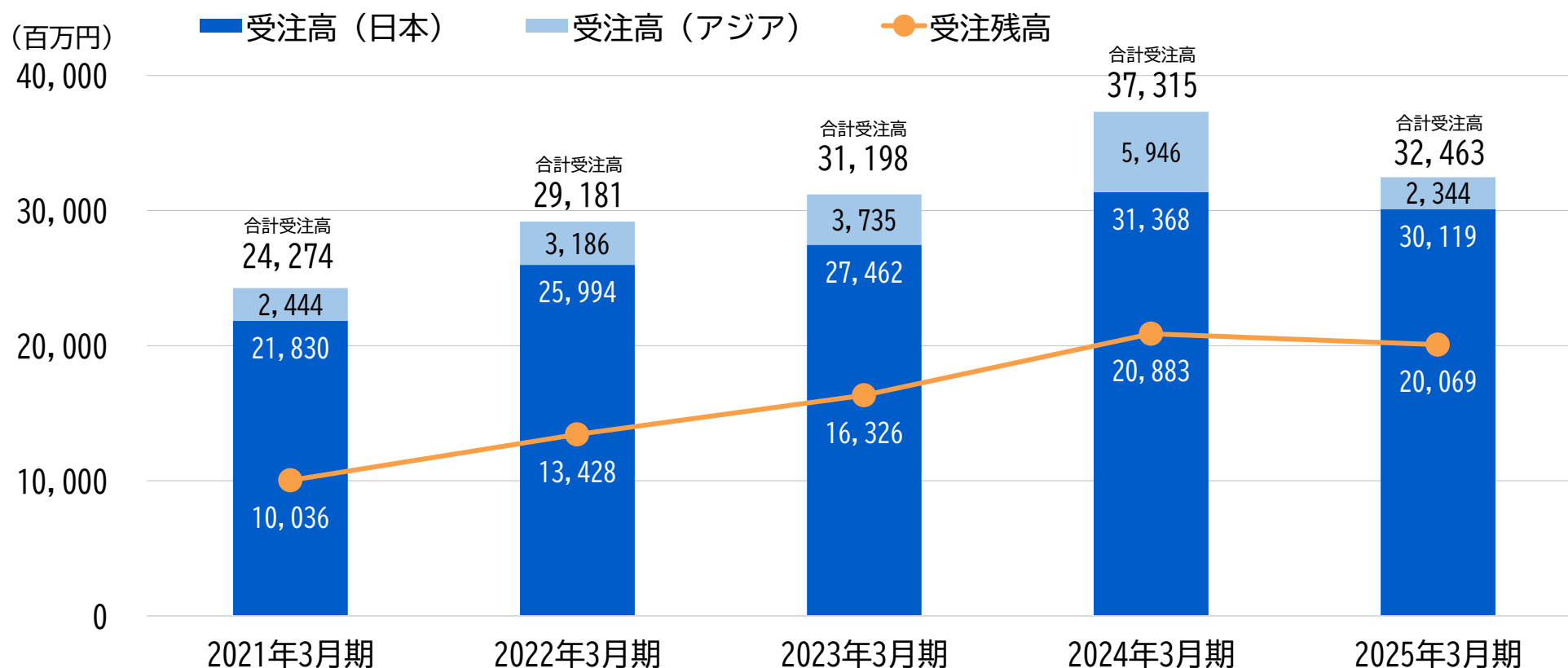
		大型ビル	産業	データセンター	その他 (※2)	合計
2024年3月期	売上高 (※1)	7,810	10,356	1,424	6,865	26,455
2025年3月期	売上高 (※1)	8,689	9,600	2,394	8,007	28,689
前期比	増減額	879	△756	970	1,142	2,234
	増減率	11.3%	△7.3%	68.1%	16.6%	8.4%

※1 新晃工業単体における、日本国内向け売上高 ※2 その他の建築用途には医療福祉、文教、宿泊、駅・空港などを含む

- 大型ビル分野では、都市部の大型再開発案件や既存ビルの設備更新・リニューアル工事などの需要により増収
- 産業分野では、過去最高を記録した前期からは減少したものの、直近5年間の傾向でみると売上額は依然として増加中
- データセンター分野では、需要の波があり前期は売上減少したが、販売強化施策や戦略投資を進めたことで今期は大幅に売上伸長。引合状況は今後も好調に推移すると予想され、いっそうの需要取り込みに注力する
- その他は病院やホテルなどの新築案件に加え、公共施設の改修・整備工事も取り込み、前期比で増加

受注高・受注残高の推移

- 日本国内では、生産平準化および中長期成長を見据えた計画受注により、当期の受注高は前期比微減で着地
- アジア（主に中国）では、コロナ禍明けの経済再開で膨らんだ前期受注からの反動で、当期受注高は減少
- 建設業・物流業の働き方改革や建設費高騰などを受け、2026年3月期以降は工事案件の長工期化や投資計画見直しなどの影響も生じると予想。今後はターゲット市場攻略を強化し、2027年3月期以降の案件獲得・需要取り込みにも注力



※各セグメントにおける受注高・受注残高の集計対象は以下のとおり

日本セグメント：空調機器製造・販売事業のうち、新晃工業単体の受注（国内グループ会社の受注は含まず）

アジアセグメント：中国現地法人である上海新晃空調設備股份有限公司におけるAHU販売の受注（FCU等の機器販売および設備工事等の受注は含まず）

株主還元



- 中計の株主還元方針および当期の業績に鑑み、期末配当金は従来予想どおりの配当額を予定
- 2025年3月期の1株あたり年間配当金は、中間18円、期末32円、合計50円となり、前期比で実質15円増配を予定（2024年12月1日付の当社普通株式分割による影響を考慮した場合の予定額）

		年間配当金			配当金総額 (合計)	自己株式 取得額	配当性向 (連結)	総還元性向 (連結)
		中間	期末	合計				
		円 銭	円 銭	円 銭	百万円	百万円	%	%
2024年 3月期	決定額	35.00	70.00	105.00	2,623	1,001	39.6	55.1
	(株式分割考慮後)	(11.67)	(23.33)	(35.00)				
2025年 3月期	決定額	54.00	32.00	—	3,608	4,715	46.4	106.3
	(株式分割考慮後)	(18.00)	(32.00)	(50.00)				
増減額 (株式分割考慮後)		(6.33)	(8.67)	(15.00)	985	3,714	6.8pt	51.2pt

※2025年3月期の配当決定額の合計は、株式分割の実施により単純合計ができないため非表示

株主優待			※保有株式数は株式分割実施後基準
	保有株式数	優待内容	
1年以上継続保有	300株以上3,000株未満	図書カード1,000円相当	
	3,000株以上	カタログギフト5,000円相当	

Ⅱ. 2026年3月期 業績予想

連結損益計算書



- 2026年3月期の通期業績は売上高580億円（前期比1.7%増）、営業利益101億円（前期比1.1%増）を予想
- 1株当たり年間配当金は、中計「move.2027」の配当方針に基づき、中間20円、期末30円、合計50円を予定

（単位：百万円、％）

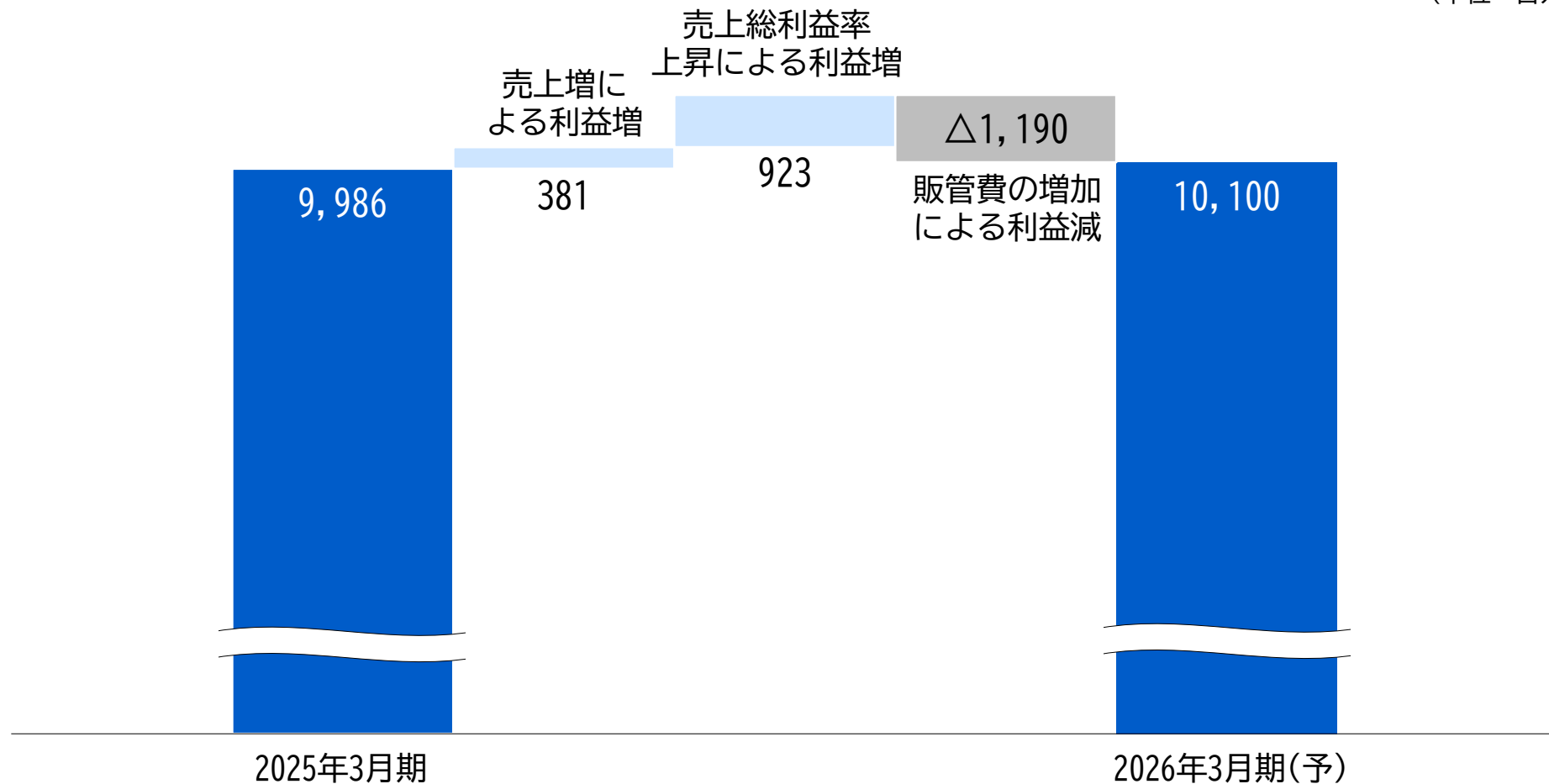
	2025年3月期		2026年3月期 予想			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	
					増減額	増減率
売上高	57,005	100.0	58,000	100.0	995	1.7
日本	49,768	87.3	50,000	86.2	232	0.5
アジア	7,237	12.7	8,000	13.8	763	10.5
営業利益	9,986	17.5	10,100	17.4	114	1.1
経常利益	10,615	18.6	10,700	18.4	85	0.8
親会社株主に帰属する当期純利益	7,829	13.7	7,400	12.8	△429	△5.5
1株当たり当期純利益（円）	107.68	—	104.66	—	△3.02	△2.8
投資金額	3,059	—	4,200	—	1,141	37.3
減価償却費	1,576	—	1,750	—	174	11.0

- 国内の空調設備への投資は堅調に推移するとみられる一方で、働き方改革や建設費の高騰などにより、工事案件の長工期化・投資計画見直しなどの影響も生じると予想。今後の市場動向は慎重な見極めが必要
- 中計2年目はターゲット市場攻略にいっそう注力するとともに、グループ全体の収益改善やグループシナジーの強化に取り組む
- 当社グループの事業は日本・アジア地域がほぼすべてを占め、米国政府の関税措置による直接の影響はないと想定。世界経済が先行き不透明になるなかで、引き続き市場動向を注視していく

営業利益増減要因

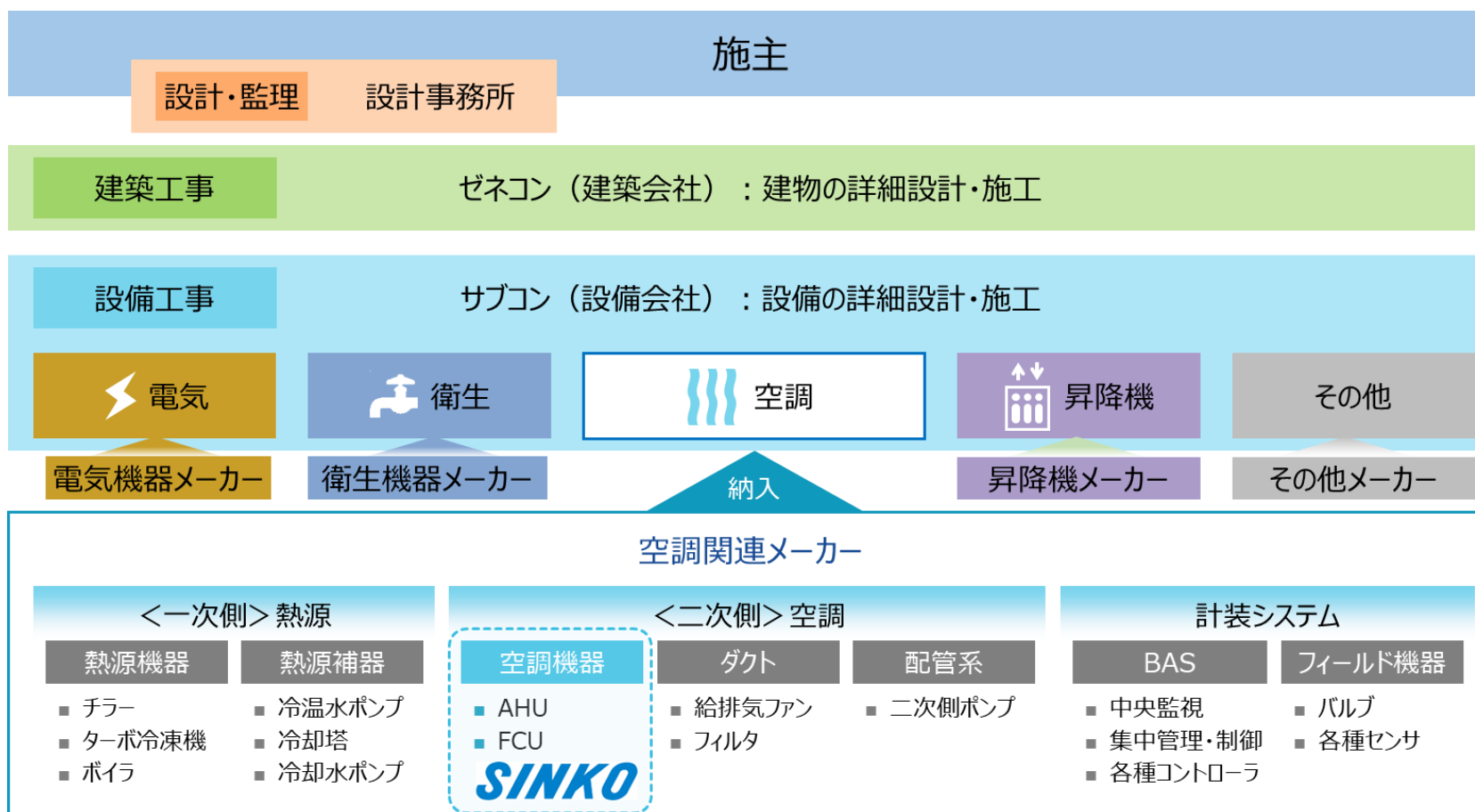
- 人件費・物流費をはじめとして、今後いっそうのコスト増が見込まれる
- 2026年3月期は、ターゲット市場における付加価値向上やグループ全体での収益性改善などに取り組み、価格改定によりコスト上昇分の吸収も図る

(単位：百万円)



Appendix

- オーナーである「施主」をトップに、設計・監理の専門家「設計事務所」、建物全体工事を束ねる「ゼネコン」、設備工事を請ける「サブコン」がプレイヤーとなり建設業界を構成
- 建設工事の中でも、設備の種類ごとにサブコンやメーカーは細分化。空調はその中の一つとして存在
- 空調設備は一次側の「熱源」と二次側の「空調」、および全体を監視・制御する「計装システム」で構成



- 国内を基盤に、中国および台湾で生産・販売拠点を展開。海外市場では中国が最も多く、その他の地域では主に代理店を通じて展開

売上構成 (連結：2025年3月期 570億円)

空調機器製造・販売事業

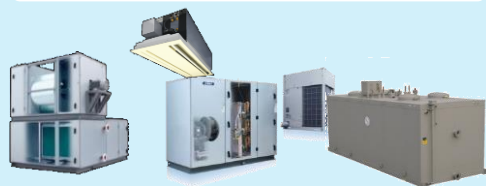
新晃工業株式会社

日本ビー・エー・シー株式会社

上海新晃空調設備股份有限公司

SINKO Air Conditioning
(H.K.) Limited

Taiwan SINKO Kogyo Co., Ltd.



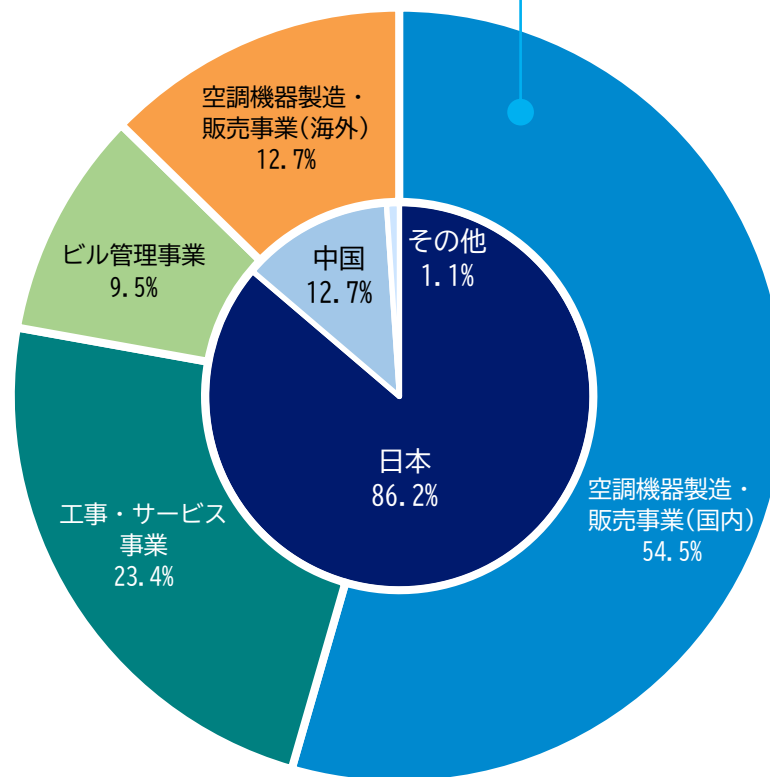
AHU / FCU / ヒートポンプAHU / 氷蓄熱

工事・サービス事業

新晃アトモス株式会社

ビル管理事業

千代田ビル管財株式会社



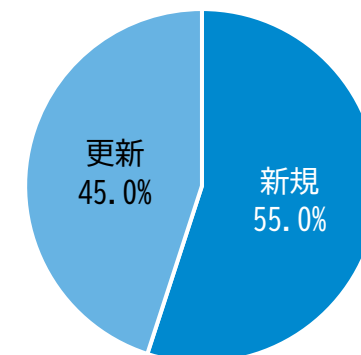
出所：当社実績

※外円の売上高は事業の種類別と販売元の所在地別に分類し、内円は顧客所在地にて分類

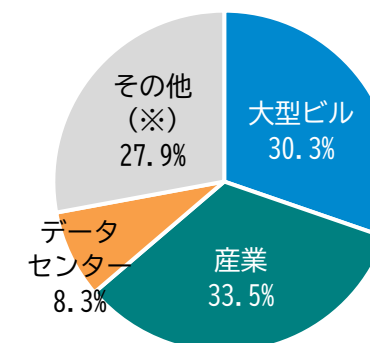
※円グラフ中の構成比率は、端数処理のため、合計が必ずしも100%とならない

新晃工業単体 国内向け売上動向

新規・更新需要別



建築用途別



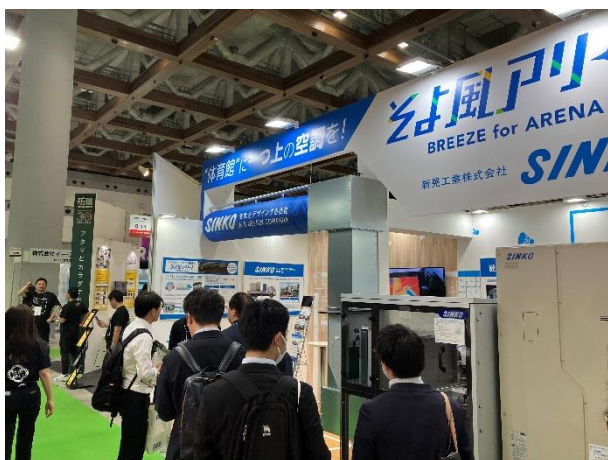
※その他の建築用途には医療福祉、文教、宿泊、駅・空港などを含む

【トピックス】EDIX（教育総合展）に出展

- 2025年4月 教育分野の課題解決を支援する日本最大級の展示会「EDIX東京2025」に出展
- 中計のターゲット市場の一つである個別空調分野において、学校体育館向けの空調は重要なニーズの一つと認識。ヒートポンプ空調機「オクージオ®」をベースに、社会的課題である体育館空調向けのソリューションを提案
- エンジニアリングへのニーズに対応する専門事業部を立ち上げるなど、営業体制の刷新も推進。製品販売にとどまらず顧客のニーズに応え、社会課題解決に貢献するための提案営業に取り組む

展 示 会 名 第16回 EDIX（教育総合展）東京
会 期 2025年 4月 23日(水)～ 25日(金) 3日間
会 場 東京ビッグサイト

6月には
大阪でも開催予定



“体育館”に一つ上の空調を!

そよ風
アリーナ
BREEZE for ARENA



室外機一体型ヒートポンプ空調機
オクージオ®

EDIX東京2025 当社出展ブースの様子

※「そよ風アリーナ」は商標登録出願中

IRに関するお問い合わせ先

新晃工業株式会社

経営企画室 経営企画部

Webサイト <https://www.sinko.co.jp/>

お問合せ先 <https://www.sinko.co.jp/contactus/>

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。